

「初めに、神が天と地を創造した。」(創世記1章1節)

## 今月の聖書のことば 2015.3

明治政府が最初に作った教科書（「小学読本」）は、何とキリスト教の神観に立つものでした。◆「天津神は、月、日、地球を造り、のち、人、鳥、獣、草木を造りて、人をして諸々の支配をなさしめたり。」「神は万物を創造し、支配したもう絶対者なり。」◆明治七年発行「小学読本」にはこう記されています。「神は常に、我々を守るゆえに、吾は、独にて、暗夜に、歩行するをも、恐るることなし。又、眠りたるときにも、神の、守りあるゆえに、暗き所も、恐るることなし。神は、暗き所も、明に、見るものゆえ、人の知らざる所と、思いて仮にも、悪しきことを、なせば、忽ち罰を、蒙ふるなり、人の知らざることをも、神は、能く知るゆえに、善きものには、幸を、与へ、悪しきものには、禍を与ふるなり」◆その後、政府は天皇を中心とした国家神道を推し進めるため聖書を意図的に排除し、進化論を教育に取り入れ、軍国主義一色になっていきました。やがて日本は自ら始めた太平洋戦争により、国家滅亡の淵に立たされ無条件降伏するに至ります。◆この絶望の時、またしても、日本を救うことになったのは聖書でした。マッカーサーは、アメリカ本国政府の意向と反することを知りながら、クリスチャンの副官フェローズ准将の進言を全面的に取り入れ、日本は世界史にも類のない平和の道を進むことになるのです。

